

Vol.5 考える、新しい理容。

Update⁺

理容の未来が輝き続けるために私達は常に新しい情報トレンドに触れ・感じ・予測しながら進化しよう。

2024-25 A/W Fashion Trend

幻想的で奇抜なファッションではなく、リアルクローズが各国のコレクションで台頭した今シーズン。ベーシックとは何かという再解釈や、日常着の可能性にフォーカスしたものが多く見られた。歴史や伝統といったアイデンティティに立ち返り、リアリティに焦点を当て、多くのデザイナーが独自のストーリーを描き出した。マチュー・ブレイジー（ポッテガ・ヴェネダ クリエイティブ・ディレクター）は「日常を特別なものにする」と語ったが、これは今季全体に通じるモットーだと言える。

Column

ヘアアレンジやシェーブエステで晴れの日をサポート。覚えておきたい振袖トレンドのまとめ。

●白×ゴールドのシャネルカラー

リボンやドット柄でかわいく、バラ柄で華やかに

●くすみカラーのガーリー振袖

レースインナーでドレスのような着こなしに

●白×ダスティーピンクのくすみガーリー振袖

淡いワントーンが着こなしのポイント

●赤色正統派古典柄

品格の高い伝統的な古典柄が家族にも好評

●白×黒×シルバーのモード系振袖

キラキラゴージャスなデザインで注目度 No. 1



ZENRIREN.INSTA

Men's

レトロでリラックス感が漂いつつ、品もあってだらしない、おじいちゃんの着古した服を借りてきたようなスタイル“グランパコア”。レザーブルゾン、ツイードジャケット、ワイドパンツやローアーなどが代表的なアイテム。古着ブームやオーバーサイズのトレンドを経て、若い世代にも取り入れる

ことに抵抗感はない。グランパコアの主要級アイテムは、どれも過去にヒットした普遍的なものばかり。王道のアイテムに、今らしい自由なミスマッチやミクスチャーを楽しむのがスタイリングのポイント。レース使いやシアー素材といった、ジェンダーレスなムードも引き続き注目したい。



BACK to TRAD

志向の変化が鮮明に

今季注目のリアルトレンド傾向は、過去のモノや定番の再構築。今の感性と想像力で表現したいのは、あくまでも「今」のスタイル。

『トラッド&ベーシック』をとことん遊ぶ



Women's

昨年目立ったラメやビジュなどのキラキラ&ドラマチックなテンションは落ち着き、秋冬らしいトラッドムードが濃い。タイムレスなジャケット、シャツ、ピーコートなど、テラードアイテムが充実。コレクションの流れから“定番の再解釈”という価値観が高まり、さらにクワイエットラグジュアリーのエッセンスも引き続き取り入れられている。スタイリングのポイントは、定番アイテムとのコントラスト。かっちりしたジャケットにシャカシャカナイロントップス、オーバーサイズのシャツにタイトなカーディガンなど、普通に着るだけではない新鮮さが今季のスタイリングには欠かせない。

トレンドラボ編集委員 リーダー：井高英聖 副リーダー：荻原奈々
メンバー：菅家絵利子 田中泰平 山崎伸司

トラッド回帰鮮明
自由な『グランパコア』本物志向
台頭

資産運用の必要性～これからの社会～ 投資信託を活用した資産運用について

Background

インフレによる現金の「価値」の目減り

例えば、車の値段が2%上がっても預貯金に置いてあるお金が2%増えなければ実質的なお金の「価値」は下がっている。

預貯金を含むトータルの金融資産でインフレ率以上の資産運用を目指すべき理由がここにある。最近多いのは価値を変えずに内容を減らす「隠れ値上げ」。これが隠れインフレだ。

公的年金以外の備えの「必要性」高まる

過度に年金を不安視する必要はない。国の根幹を担う制度として国費が投入され支給は死ぬまで続く「終身」である点など民間保険に真似できない商品性だとさえ言える。

一方で少子高齢化の現実を踏まえると今後の受給額が大きく増える事は考え難く、豊かな老後の為にはより一層の自助努力が必要となる。

預貯金では「増えない」という現実

そもそも現在の0.01%などの預貯金金利ではお金を増やす事は出来ない。

例えば、10年で2倍にするには年平均7.2%の運用利回りが必要であり、それは間違いなく何らかのリスクを受け入れなければ現実しない水準となる。

これらの状況を踏まえて考ええるべき3つのアクション！

1. 企業型 DC（企業型確定拠出年金）と iDeCo（個人型確定拠出年金）の検討と見直し
2. 小規模企業共済など退職金制度の検討と見直し
3. NISA 活用の検討

NISA の「これから」

2014年からスタートした「少額投資非課税制度」日本は投資利益に対し通常20.315%の税金が掛かる。しかし、NISAを利用すると限りなくゼロになる。

①口座開設条件 & 開設手続き

NISA口座は、日本国内に住み口座開設年の1月1日現在で18歳以上の方なら誰でも開設でき、証券会社に「特定・一般口座」をお持ちでも開設出来る。

②原則1人1口座 & 売却

原則1人1口座で口座を開設する金融機関の変更は1年単位でしか行えない。購入した上場株式・投資信託はいつでも売却出来る。

③つみたて投資枠 & 成長投資枠

NISA口座は「つみたて投資枠」と「成長投資枠」の2つから構成され、この2つの枠は併設が可能で成長240万、つみたて120万が年間非課税枠。

④非課税保有額

非課税保有額はNISA口座で保有する商品を売却することで減少する。減少した分は翌年以降年間投資枠の範囲内で新たな投資に利用出来る。

⑤損益通算

NISA口座では売却損失はないものとされる。したがって売却損失が発生しても特定・一般口座で保有する他の株式等の配当金や売却益等の損益通算は出来ない。

2024年からの新NISAと旧NISAの一番の違いは

「年間投資可能額と生涯投資上限額の増加」「非課税保有期間が無期限化」

※本資料は「いちよし証券」<https://www.ichiyoshi.co.jp/nisa>の情報を参考
(2024年9月23日現在)

※変更点

旧NISAは非課税保有期間が一般NISAが5年、つみたてNISAが20年の保有期間。
期間内の売却で利益を得れば税金が掛からず、自身でタイミングを決めて売却する必要(→無くなる)。

新NISAでは

「成長投資枠」と「つみたて投資枠」の併用が可能。

新NISA 積立投資戦略（積立投資枠のみ）

1か月積立額	年利	年数	元本	利益	合計
10,000円	5%	30年	360万	472.3万	832.3万
30,000円	〃	〃	1,080万	1,416.8万	2,496.8万
50,000円	〃	〃	1,800万	2,361.3万	4,161.3万

積立額・年利・年数によって決まる。